

情報連絡員総括表（2023年6月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI 値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ± 0.0 (=横ばい)で推移
※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 (回答者数 59 名 : 回収率 98.3%)

○2023年6月のDI 値は、前月との比較において、「販売価格」を除く8つの指標が改善した。「売上高」は20.6ポイント改善し6か月ぶりにプラスに転じたものの「販売価格」は2.3ポイント悪化しており、依然として収益圧迫の現状が見られる。

○「製造業」では、前月との比較においてすべての指標が改善した。特に「収益状況」は26.9ポイント改善し、DI 値はマイナス26.7ポイントとなった。受注はコロナ前の水準に戻りつつあるという声がある一方、エネルギー・原材料価格高騰の影響で依然として収益率は悪い傾向にあり、より一層の売上増が必要とのコメントも寄せられた。また、織物業からは「受注が3年ぶりに回復しているが、生産能力がコロナ前の7割程度で設備増強も難しい」とコメントがあり、需要が回復してもなおコロナ禍の影響が残る。

○「非製造業」では、前月との比較において、「収益状況」を含む4指標が改善し、「販売価格」を含むその他4指標が悪化した。なかでも「売上高」は24.0ポイント改善し、DI 値は20.7ポイントとなった。各業界で需要が回復したとのコメントがある一方、「販売価格」は8.6ポイント悪化しており、道路貨物運送業から「荷主との価格交渉も燃料価格に見合わない若干の値上げにとどまっている」とコメントがあるほか、燃料小売業からは「9月末までに10円以上の値上がりが見込まれる」と更なる燃料コストの増加が予想されている。

(DI 値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2023年6月	6.8	2.3	32.2	-8.5	-15.2	-11.8	-16.7	-11.8	-15.2
2023年5月	-13.8	2.4	34.5	-12.1	-34.5	-17.2	-25.0	-18.9	-27.6
増減	20.6 ↑	-0.1 ↑	-2.3 ↓	3.6 ↑	19.3 ↑	5.4 ↑	8.3 ↑	7.1 ↑	12.4 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値		増減		DI値		増減		DI値		増減	
売上高	2023年6月	-6.7	18.3	ポイント	↑	20.7	24.0	ポイント	↑	6.8	20.6	ポイント	↑
	2023年5月	-25.0				-3.3				-13.8			
在庫数量	2023年6月	0.0	-7.1	ポイント	↑	7.2	14.4	ポイント	↓	2.3	-0.1	ポイント	↑
	2023年5月	7.1				-7.2				2.4			
販売価格	2023年6月	23.4	5.6	ポイント	↑	41.4	-8.6	ポイント	↓	32.2	-2.3	ポイント	↓
	2023年5月	17.8				50.0				34.5			
取引条件	2023年6月	-10.0	7.9	ポイント	↑	-6.9	-0.2	ポイント	↓	-8.5	3.6	ポイント	↑
	2023年5月	-17.9				-6.7				-12.1			
収益状況	2023年6月	-26.7	26.9	ポイント	↑	-3.5	13.2	ポイント	↑	-15.2	19.3	ポイント	↑
	2023年5月	-53.6				-16.7				-34.5			
資金繰り	2023年6月	-20.0	5.0	ポイント	↑	-3.4	6.6	ポイント	↑	-11.8	5.4	ポイント	↑
	2023年5月	-25.0				-10.0				-17.2			
設備操業度	2023年6月	-16.7	8.3	ポイント	↑					-16.7	8.3	ポイント	↑
	2023年5月	-25.0								-25.0			
雇用人員	2023年6月	-6.7	21.8	ポイント	↑	-17.2	-7.2	ポイント	↓	-11.8	7.1	ポイント	↑
	2023年5月	-28.5				-10.0				-18.9			
業界の景況	2023年6月	-13.3	15.2	ポイント	↑	-17.2	9.5	ポイント	↑	-15.2	12.4	ポイント	↑
	2023年5月	-28.5				-26.7				-27.6			

今月の業種別回答件数

	売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況				
	増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化			
製造業	食料品	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0		
	繊維工業	2	0	0	1	3	0	0	1	0	2	0	1	1	1	0	1	1	0		
	木材・木製品	0	4	2	1	0	2	0	2	0	4	0	2	0	4	0	2	0	4		
	紙・紙加工品	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1		
	印刷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	窯業・土石製品	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0		
	鉄鋼・金属工業	2	2	0	2	1	1	0	1	0	2	0	2	0	2	1	0	0	3		
	一般機器	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0		
	電気機器	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0		
	輸送用機器	4	1	2	0	2	1	2	1	2	1	0	1	3	1	1	1	3	1		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
非製造業	卸売業	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	X							
	小売業	2	1	1	1	3	1	0	2	0	3	0	1					0	0	0	1
	商店街	2	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	1					0	2	0	0
	サービス業	2	1	X		2	0	0	0	2	0	1	0					2	0	3	1
	建設業	1	2			0	0	0	1	0	2	0	0					0	0	1	0
運輸業	2	1	3	0	1	0	2	1	1	1	1	0	2	1	1	3					

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	・今後も続く電気料金の値上げが大きな経費負担となる。
パン製造業	・輸入小麦の政府売り渡し価格が本来4月は13%の値上げであったが政府の激変緩和措置により5.8%となった。しかし7月からこれに関連し小麦粉の値段が上がるため最終製品価格も上昇するため消費者の理解が得られるか懸念される。
織物業	・本年度浴衣の受注が3年ぶりにやっと復活し現在は安定的に推移しているが、生産能力がコロナ前の7割程度で設備増強も難しい。秋冬物の受注に期待。
	・原材料費上昇により顧客先の買い控えがみられる。
製材・木製品	・市況の低迷状況は変わらず。
印刷・同関連業	・コロナの影響で前年は売上が低調だったため、表面的には、今月は前年同月より増加している。コロナ以前に近い水準まで回復しているが、全ての資材が値上がりしているため、利益率が下がっており、より一層の売り上げ増加が求められる。資材値上げに対して、価格転嫁を進めていた効果が少し始めているようだが、今後の受注状況が予測できない。
骨材・石工品等	・売上が前年より減少しており、収益状況が厳しくなっている。
金属製品	・エネルギー・原材料の高騰により、収益率が著しく悪化。
	・輸出が減産傾向で先行きに不安がある。
電気機械器具	・大型冷蔵庫は需要の減少による生産調整が続いている。 ・家庭用エアコンと業務用エアコンの生産は昨年比では増加したが、販売に連動した生産計画変動が発生し対応に苦慮している。
輸送用機械器具	・原材料は高止まりで落ち着いた感じだが、エネルギー価格の上昇分まで現状の価格転嫁では吸収できない。
	・半導体に関連する部品調達の影響は解消されつつあり次月以降は生産が安定することを期待している。ただし、水害の多発する時期でもあり減災対策の取組みを組合員企業に働きかけている。
	・自動車部品製造業をはじめとする中小企業では、原材料費、エネルギー価格、人件費等諸物価高騰で収益性は減少傾向にある。
	・半導体の不足状況も改善傾向にあり、生産増加傾向である。一部販売価格についても見直しの状況が報告されている。

非製造業

セメント卸売業	・災害復旧関連工事の発注が寄与し始め、2か月連続で前年同月実績を上回った。
鮮魚小売業	・行動制限の緩和により、個人消費を中心に緩やかに回復し売上は増加しているが、それ以上に仕入れ額が上がっているため、収益状況は依然として悪い。また、組合員企業の人材確保が非常に厳しい状況となっている。
燃料小売業	・政府は原油高騰対策としてこれまで「燃料油価格激変緩和対策事業」として石油元売各社へ補助金を投入してきたが、6月以降は9月末終了に向け補助額が2週間ごとに10%削減され、4か月かけて最終的にすべてなくなる。このため、石油製品全油種とも卸売価格が大幅に値上がりとなる。石油販売業者が値上がり分を負担することはできないため、販売価格へ転嫁することになる。原油価格の変動や為替にも影響されるが、現時点では10円以上の値上がりが想定されている。
各種商品小売業	・海外の動向を常にチェックしているが、日本だけコロナ禍から取り残されている。政治、観光、スポーツ、消費すべてにおいて早急に元に戻す努力をしないと手遅れになる危機感を感じている。
	・土・日に雨が多く来店が少なかった。6月後半より衣料品店がセールを始めた。組合イベントはコロナ前より参加店舗が少なく、お店は人手不足のようだ。
	・6月のセールは前年に比べ反応が良かった。また、市では6月1日から1ヶ月間、d払い・AUPay払いによる20%ポイント還元キャンペーンが実施され、売上に寄与した。
宿泊業	・組合員旅館の宿泊人員は、前年比98.1%と若干悪化した。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類へ移行されたことにより、県外からの利用者が増加傾向にあり、大河ドラマの関係のツアー客などもある。但し、平日の個人のお客様の集客に苦戦した。
	・ゴールデンウィーク後の動きが鈍かったが、予想より早くインバウンド予約が伸び始め、特に欧米からの個人旅行が増加している。また、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類へ移行し、各種観光イベントが通常に近い形で実施されるようになり、今後、夏の花火大会等、繁忙期での集客を期待する。
総合工事業	・2024年問題の話を業界関係者からよく聞くようになった。内容は運賃値上げと配達時間の増加。これらのことが当たり前になれば手配等をもっと早く行わなければならない、人手不足の中さらに負担が増える。
職別工事業	・期首ということもあり、全体的に現状は落ち着いている模様。特に中部地区に関しては、発注状況が芳しくなく、今後の動向が注視される。西部、東部地区については、秋に向けて大型案件が着工するため、繁忙期がつづくと思われる。
道路貨物運送業	・燃料が高止まりする中、荷主との価格交渉も、話を聞いてはくれるが運賃値上げもごく一部であり、多くがコストに見合わない若干の値上げにとどまっている。ドライバーの人材不足も深刻であり、募集をしても来るのは60歳を超えた高齢者が多く若い人材が来ない。
	・トラック業界の2024問題が迫る中、各会社の運賃値上げの交渉が滞っており、厳しい状況となっている。
	・倉庫の問い合わせが多くなってきている、2024年問題に合わせて中継輸送の拠点・積み替え拠点としての倉庫の需要が高まってきている。
	・5月後半から全体的に荷動きが悪い。
道路旅客運送業	・県内全体の輸送人員のコロナ前との比較では、4月のマイナス27.0%から5月は4.6%上昇している。旅客需要の回復速度は依然として鈍く、懸念されていたドライバー不足による供給力不足が影響してものと思われる。

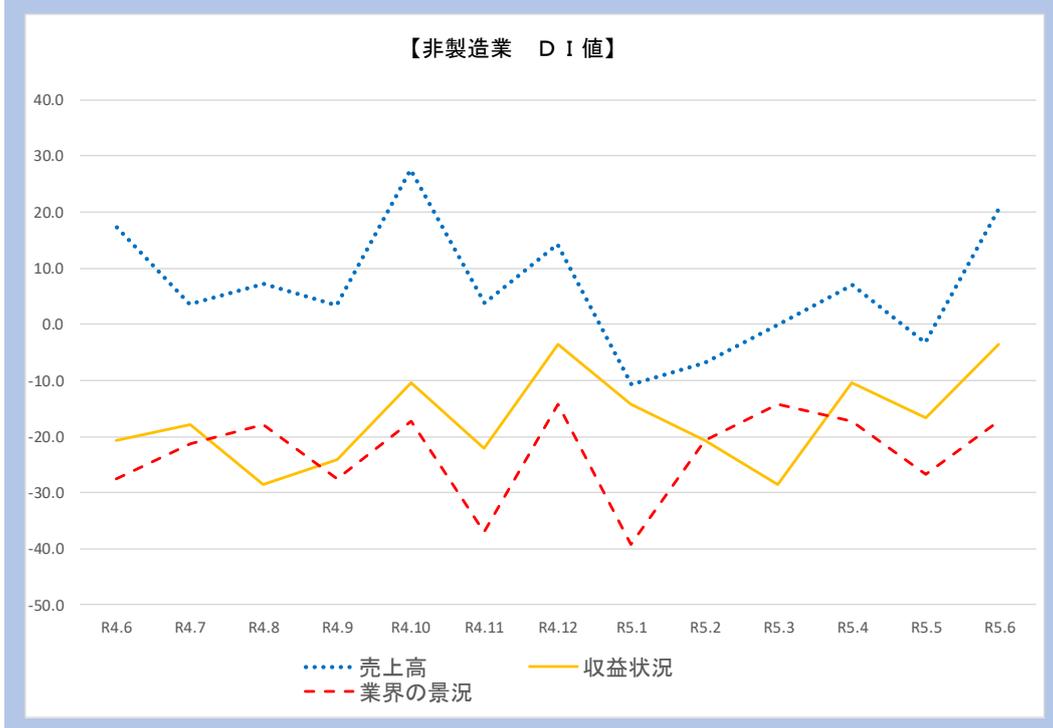
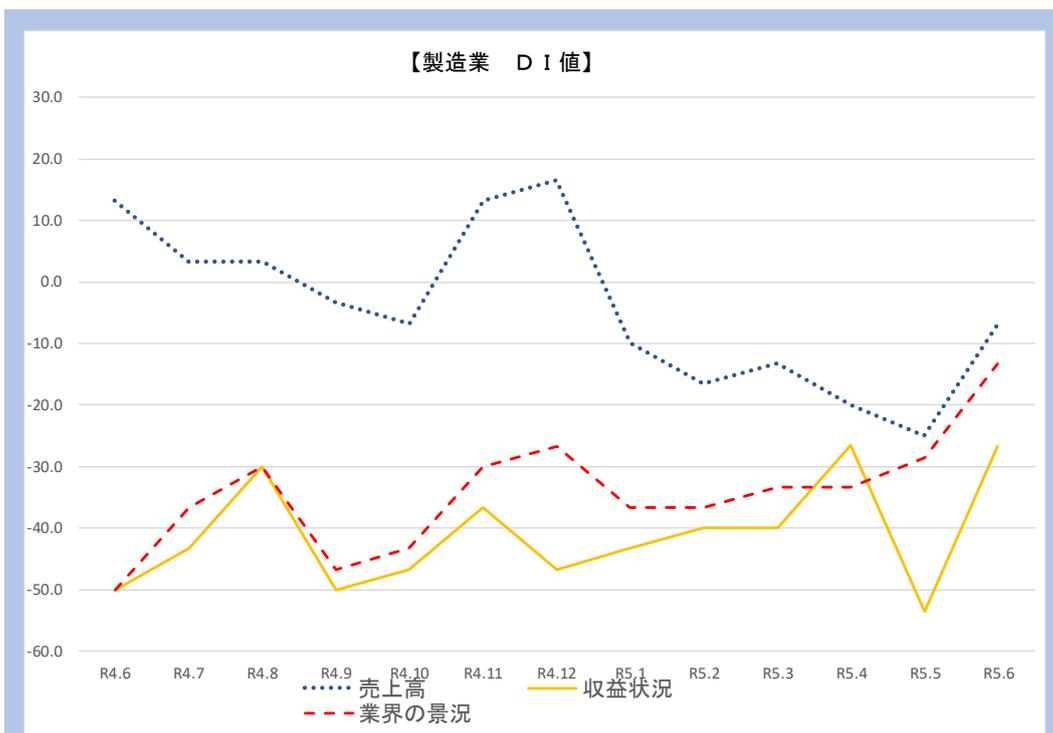
4. 主要三指標における DI 値の推移

■2022年6月期～2023年6月期までの推移

全体	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
売上高	15.3	3.5	5.2	0.0	10.2	8.8	15.5	-10.3	-11.9	-6.9	-6.8	-13.8	6.8
収益状況	-35.5	-31.0	-29.3	-37.2	-28.9	-29.9	-25.9	-29.3	-30.5	-34.5	-18.7	-34.5	-15.2
業界の景況	-39.0	-29.3	-24.1	-37.3	-30.5	-33.4	-20.7	-38.0	-28.8	-24.1	-25.4	-27.6	-15.2

製造業	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
売上高	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0	-16.6	-13.3	-20.0	-25.0	-6.7
収益状況	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0	-26.6	-53.6	-26.7
業界の景況	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3	-33.3	-28.5	-13.3

非製造業	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
売上高	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7	-6.9	0.0	6.9	-3.3	20.7
収益状況	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6	-10.4	-16.7	-3.5
業界の景況	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3	-17.2	-26.7	-17.2



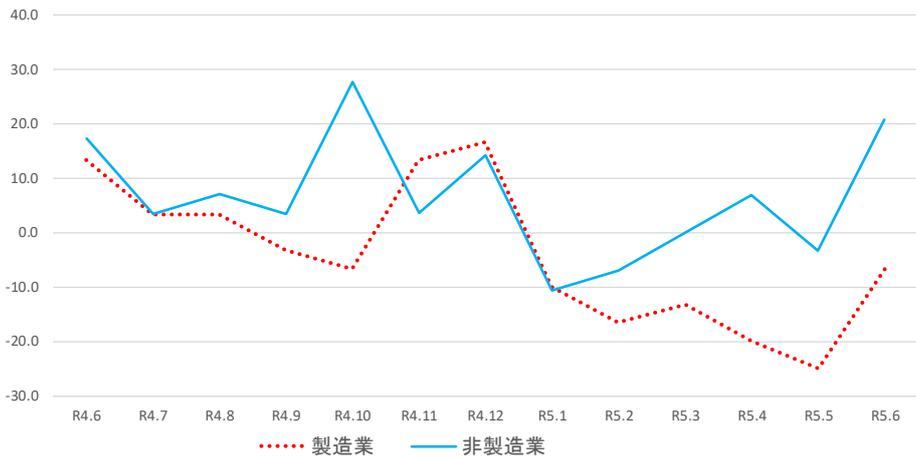
■2022年6月期～2023年6月期までの推移

売上高	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
製造業	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0	-16.6	-13.3	-20.0	-25.0	-6.7
非製造業	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7	-6.9	0.0	6.9	-3.3	20.7

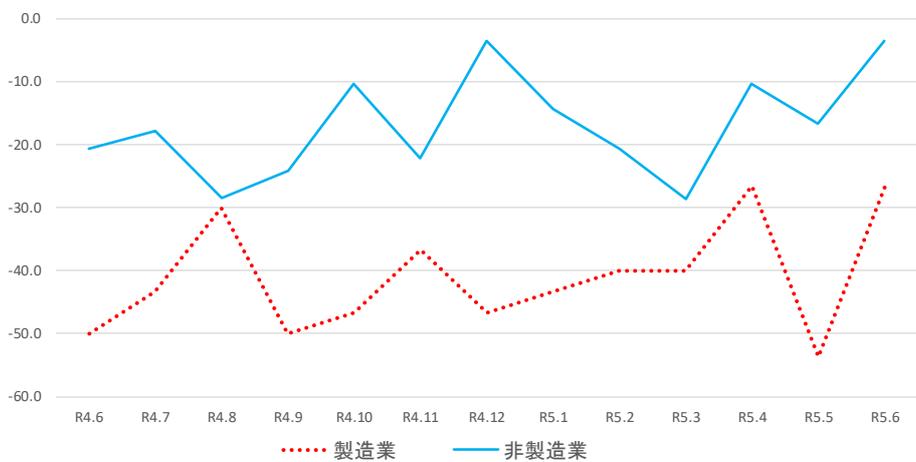
収益状況	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
製造業	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0	-26.6	-53.6	-26.7
非製造業	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6	-10.4	-16.7	-3.5

業界の景況	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6
製造業	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3	-33.3	-28.5	-13.3
非製造業	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3	-17.2	-26.7	-17.2

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

